

# 一人ひとりを大切にする具体的な保育

12

## 子どもの最善の利益へつなげて

ユリア  
愛知県碧南市・へきなんこども園園長

### 1 4月当初から落ち着いた空気が

新年度を迎え2か月が過ぎましたが、園は落ち着いてきたでしょうか。

4月初めの頃は、一般的には職員間で「大変だよ〜」といった言葉が飛びかっっていることが多いと思います。そして目に浮かぶのは、子ども1人もしくは2人を保育者が抱っこし、その近く、もしくは入口近くで泣いている子どもの姿です。以前の自園での姿です。

もちろん、「慣らし保育をしつかりしているの、そんな姿はありません」という園もあるでしょう。自園の場合は、慣らし

保育はありますが、基本的に入園から1週間は12時30分まで保育し、昼食をすませてお迎えです。

この進め方は以前から変わらないのですが、近年では、以前も述べましたが入園式の次の日から乳児クラスでも落ち着いて遊ぶ姿が見られます。でも、まったく泣かないということではありません。保護者と離れる時はもちろん泣くのですが、しばらくすると、機嫌よく遊ぶ姿を見せてくれます。どうしてそうなるのか、1つには遊びの環境が整っていて、また、部屋が落ち着いた空気を漂わせているからだと思います。しかしもう1つの大きな要因として、短期間の間に担任との信頼関係が築かれていることだと思えます。

逆に大人が落ち着かず、ソワソワしている場合には、何人かの子どもはいつまでも泣いているようです。そうした時には、保育者自身に「自分の呼吸に意識を向け、ゆつ

くり呼吸してみてください」と伝えたりしています。実は、子どものほうが大人をよく見ているかもしれないと思ったりします。乳児の遊びの環境については、本誌2018年7月号からのこの連載で述べさせていただきました。ご参照いただければ幸いです。

### 2 保育士の疲れの度合い

一人ひとりを大切にする具体的な保育を始めて、気がついてみれば4月当初から園全体に落ち着いた空気が流れている…、こうしたことがせひ、多くの園で実践されることを願ってやみません。子どもたちにとっては言うに及ばず、保育士にとっても疲れの度合いがまったく違うようです。

今年度、自園に転職してきた職員で、12人中10人が新入園児という1歳児クラスを担当している保育士がいます。その保育士が毎日帰りに、頬につや玉を作りながら「楽しいです、今日も一日ありがとうございました」といってニコニコ笑顔で帰っていき姿は、私にとっても本当に喜びです。

突然ですが、皆さん、自分のことを大切にしていますか。

人によっては、この投げかけに「ハッ!」とする方もいるかもしれません。

保育者の多くは、他の人に奉仕する気持



●上・歯磨き指導…歯科衛生士さんの話を幼児全員で聞く  
 下・課業（3・4歳児）…テーマ「自然を知る」／絵本『はっぴのいえさがし』（ちいさなかがくのとも 2016年11月号／福音館書店）や園庭の葉っぱを使って

ちを持つている方が多いように思います。我を忘れて夢中で仕事をし、おもしろくて保育をしている場合はそれは素晴らしいと思います。

しかし、やらなければならないと義務感で頑張っている場合は、なかなか疲れるのではないのでしょうか。

何が良くて何が悪いということを判断するのが難しい局面も多くあると思いますが、物事には二面性があるということを認識し、そのバランスを取っていくことが大切だと思います。

### 3 保育をするうえでの平等って

また、それぞれ得意なことも苦手なこともあります。そうした現実の中で、職員それぞれが力を発揮しやすい工夫をすることは有益なことです。具体的には、全体の場でピアノを弾く場合には、とてもピアノの得意な人にその役割を担ってもらおうといったようなことです。

今までの価値観では、保育士も皆順番に同じ役割をこなすことが当たり前と考えて

いましたが、全体としてスムーズに仕事が進むことを考えていきます。

ここにも1つ、大きな価値観の転換があります。それは、同じことをすることが平等との考え方と、それぞれの人にとってのできることをするという、物理的には同じではないけれど、それぞれの人にとって最大の働きをするという意味で、平等と考える考え方です。

保育についても、一人ひとりを大切にす  
 る具体的な保育を実践するにあたっては、  
 均等ではなく、それぞれの必要な量を与え  
 られることを平等とするという概念を持つ  
 と理解しやすい面があります。なぜならば、  
 今までの日本の保育、または学校教育では、  
 皆同じであることが正しい、もしくは同じ  
 であることが平等であるといった認識のも  
 とで、多くの教育がなされてきたため、一  
 人ひとりの個性を認めることが難しかった  
 という事実があるからです。このことは間  
 違ってはいるわけではありませんが、しかし  
 一人ひとりに着目する時には、不都合なこ  
 とが生じるのです。

少し前から「みんなちがって、みんない  
 い」といった言葉をよく聞きますが、実際  
 にはまだまだ、皆と同じことをすることが  
 求められていることが多いように思います。  
 そのことも大切なことなので、バランスを



●上・園庭にて（0歳児）  
下・部屋中でそれぞれの遊びを楽しんでいます（5歳児）

取ることが求められると思います。

子ども一人ひとりと丁寧に関わると、当然、より個性がはつきりと表出してきます。保育士にとっては、子ども一人ひとりと丁寧に関わることはとてもエネルギーのいることです。より深く関わることで喜びも感じるようです。

#### 4 乳児保育の取り組みの基本

12回にわたって保育現場での実践を述べさせていただきました。もっと素晴らしい実践をされている園もたくさんあると思い

ますが、あえて述べさせていただいたのは、特別な保育をしているわけではなく、普通の保育でもほんの少し、考え方や視点を変えることで、子どもにとってより安心して目を輝かせて過ごせる状況が準備できると確信しているからです。

ここでもう一度、自園での乳児保育の取り組みを整理してみたいと思います。

一昔前までは、基本的に玩具のない部屋で、保育者の立てたスケジュールに従って、子どもたちは1日を集団で行動し、過ごしていました。まず遊びについては、今まで

遊ぶ玩具を保育者が今日は3つと限定し、そしてこんな言葉掛けをしていました。

「さあ、今からこれで遊びますよ」

「はい、もう遊ぶ時間は終わり。みんなでお片づけですよ」

といった具合です。

変化の第一歩として、この遊びについてそれぞれの子どもが自分で選んで遊ぶことができる環境を整えました。詳しくは、本誌2018年7月号をご覧ください。

次に、一斉に食べていた食事を、より一人ひとり具体的に丁寧に見るために、必要な手助けができる人数で進めるようにしました。結果として、ほとんどこぼすこともなく、食べ方もきれいになりました。そして、食事の時間がとても落ち着いた時間になりました。

また排泄については、一斉のトイレの時間から一人ひとり関わるようにしました。そうすることで、保育者により密接な関わりを持つ重要な時間になり、子どもたちにとっては、保育者を独り占めできる嬉しい時間になりました。

そして、オムツはトレーニングして外すものではなく、それぞれの心と身体の発達に伴い、外れるといった考え方に切り替えました。このことも、早いほうが良いとか悪いとかではなく、一人ひとりそれぞれの

- ① 4歳から昼寝がなくなり、まわりの子どもたちが遊ぶ中で寝入っている子と隣で絵本を読む子
- ② 手作り布おもちゃ（魚）



①

タイミングで自立していくことを支える手助けをすることを考えています。

遊び、食事、排泄は、すべてもとにある考え方の方向を180度変えています。つまり、大人の考えたスケジュールに合わせて子どもを行動させるという考えから、子ども側の視点で考えて、一人ひとりの状況に合わせてということに転換したのです。

## 5 おわりに

実際、子どもがすることに変わりはありませんが、こうして、遊び、食事、排泄を



②

丁寧にすることで、結果として子どもの権利条約に謳われている内容が無理のない形で尊重され、特に保育の現状では見落とされていることの多い「子どもの意見表明権」などが保障されます。

「私は大事にされている」という感覚が積み重なって「私は大事な存在である」と感じる日常を過ごすことになり、自己肯定感が育ちます。そして、自分の居場所があり、そこが安全で安心と感じられる時、自分を出すことができ、さらに創造性や自発性が育ちます。

ただ、ここで丁寧に関わるということは、



●職員会

べったりずっと抱えているという意味ではありません。子ども同士の関わりも当然大事にします。

地道に一つひとつの行為を積み重ねることにより、結果として一人ひとりの全体的な発達が無理なく促され、子どもの最善の利益につながっていきます。

1年かけて小さな種をまかせていただきました。この種が全国で芽吹き、日本の子どもたちがより幸せな日々を過ごせる手助けとなれば幸いです。

ありがとうございます。

\*この連載は今回で終了です。ご愛読ありがとうございました。